

読む



ビタミン

地域に根ざす工務店

・リフォーム店を元気にするビタミンです。

2022年10月号

今月のひと言

今こそ、偉人に触れる。

コロナで誰も「明日、私は大丈夫だろうか?」と。
つまり生きる、生活するということの大前提を垣間見たのですね。
「明日のことは、わからない」と。

そんな中で、どう生きれば、過ごせばいいのか。
それには自分が何を大事にしているかが、改めて問われます。
そこで、自分はこうだけど、果たしてそれで、それだけで、いいの?
と思われる方に、一つのお勧めです。
それが「偉人の言葉に触れる」。

比較的分かりやすいものから、お勧めを2つ。
人生とかに関してなら「アインシュタインの言葉」。
ビジネスなら「エジソンの言葉」。

平易な言葉で語られていて、為になりますよ～

選ばれるリフォーム店になるために デジタル活用販促講座

アマゾンや楽天などのECサイト、そしてWEBにSNSと
スマホ一つで情報がなんでも取れるし、スマホ一つで
ほとんどの物が手に入る時代になった。
この時流にリフォーム店がどう乗っていけばいいのか？
その提言をシリーズで解説させていただきます。

第10回 デジタル化販促の具体策 その6

デジタルのWEBにしてもアナログのチラシにしても、それらは情報発信や集客の手段であり、経営目的ではありません。(もちろんWEBやチラシという手段の目的も設定するべきですが・・・) ですからそれら手段を有効にするには「経営視点に立った、自社商品とお客様をどう結びつけるか？」というマーケティング発想が必要で、ここからはそれに必要な6つの項目を具体例を交えて順番にご紹介させていただきます。

6 販促ツールはもっと口コミを広げるために！

販売促進とは「商品を買ってくれるであろう人と出会い、その人が必要とする情報を届けること」つまり、必要とする情報が届いた段階で、買うか買わないか判断するのはお客様自身の判断。そこで必要なのが・・・

「お客様の困りごとを解決したり、欲するニーズを満たす情報をお客様の立場になって提供すること。決して売り込んではいけない！」という姿勢であり、見せ方。というのが私の一貫した考え方です。

さて「販促ツールはもっと口コミを広げるために」に話を戻しましょう。
まず前提して、なぜ、口コミを広げたほうがいいのか？

お客様や地域の方々が・・・
 “あの商品、私も買ったけどとってもいいよ！”
 “あの会社、地道に地域貢献、私応援しているの！”
 “メルマガ登録したら商品券1000円分もらった！”
 “セミナーに参加したけど、とっても勉強になった！”
 “定期情報誌やブログで私のお店のチーズケーキを紹介してくれたの”
 “メルマガに地域応援企画、色々とお店のお得情報が！”
 “インスタが面白いの。私フォローしちゃった！”
 “メルマガに「社長の履歴書」ってのがあって、それ読んで感動よ！”

いかがですか？ お客様や地域の方々がこうして口コミしてくれたら、その数が増えたら、御社をみんなが応援してくれたら口コミが広がると思いませんか？

その方々は御社の営業マンになってくれるのです。

上述のような「口コミ」が起こるようなツールを作り活用していただきたいと思います。

以下、その事例を2点ほどご紹介しましょう。

住みなれた我が家で、
ずーっと安心して
住み続けるための備えとは？

元気に
住み続け
セミナー

8月7日(土)
13:30-14:30

参加費：1000円 ※先着順
申し込み：090-2745-7935

▲NPO 応援ツール例

eNのメルマガ登録をお願いします！

メルマガ登録のお礼、ご用意しました！

メルマガ登録即ち 500ポイント進呈

090-2745-7935

▲メルマガ会員登録ツール例

いかがでしょうか？ 口コミを起こすイメージ、少しでも感じていただけましたでしょうか？
次回はデジタル販促講座の最終回「共感マーケティングで応援団を！」をお届けします。

BITE-SIZE EINSTEIN
JERRY MAYER & JOHN P. HOLMS

*Bite-Size
Einstein
150
Words*

*Jerry Mayer
&
John P. Holms
illustrations*

Discover

人生について、世界について、
人間アインシュタインが勇気をくれる

アインシュタイン 150の言葉

“驚異のロングセラー”

発売以来22年で67刷30万部突破! 新装版で登場!

人生の悩み・迷いに効く

エジソンの 格言 59

～偉人に学ぶ人の心を変える珠玉の言葉たち～

知家 著



人生の気づき・行動の糧に
人は、考え次第で世界を変えられる

工務店さんがいるところなら...
日本全国東奔西走どこへでも!
呑んで騒いで時折仕事。

早川大二の
よいどれ



渡り 旅日記



百九合目 音を楽しむから音楽



過日9月15日、横浜舞田の「アビーム」というライブハウスで“親父ボランティアズ”として少しばかり演奏してきた。この親父ボランティアズというのは東北大震災以降、大田区でボランティア活動をしている仙裕二と我がバンド WHOTA 数名が彼を応援するために組んだ即興バンドである。この日はこの“親父ボランティアズ”と“ニューキャッスル”の2バンドのステージであった。

また、我らがステージ終了後にはオープンマイクといって、飛び入りで色々な人が自由にパフォーマンスする時間となった。まあ、次から次へと。色々な人がいるもので、上手い下手はさておき、全員がキラキラと輝いていた。長渕剛になりきっている人、どこかの歌姫になりきっている人、ハーモニカ1本で笑いと感動をかっさらって行く人、高田渡がロックぼく歌うとこんな感じだろうな、と感じる人。でも、兎にも角にも心から笑い楽しめる時



▲ブルーグラスユニット「ニューキャッスル」
演奏もMCもよかった!!



▲お世話になっている磯子FOLK村の方々も応援に来てくれました!

間であった。はてさてハイボールを何杯お代わりしたことか?そしてつくづく思った。音を楽しむから音楽なんだな、と。アビームのマスター、MCのジャーニーさん、お世話になったです。また行くね!!